



平成19年度 第2回労働安全衛生大会開催

トピックス



松本広域森林組合が発足し、技能
職員を対象とした第二回安全大会が
十月二十六日に開催されました。
安全第一をスローガンに開催され
た労働安全大会では、緊急時の救急
処置法について日赤の指導員より
研修を受けました。また、現地の研
修ではスウェーデンから来日した
インストラクターにより、心臓蘇生
のご教授いただきました。

組合長から職員へ研修に向けての挨拶をする。

各班に分かれミーティング



心肺蘇生の
実践地訓練
真剣に取り
組む職員！



スウェーデンからのインストラクターによる技術研修

森林づくりについて考える

森林の果たす役割を認識し「緑の社会資本」を健全な姿で後世に引継ぎましょう！

森林の公益的機能と評価額

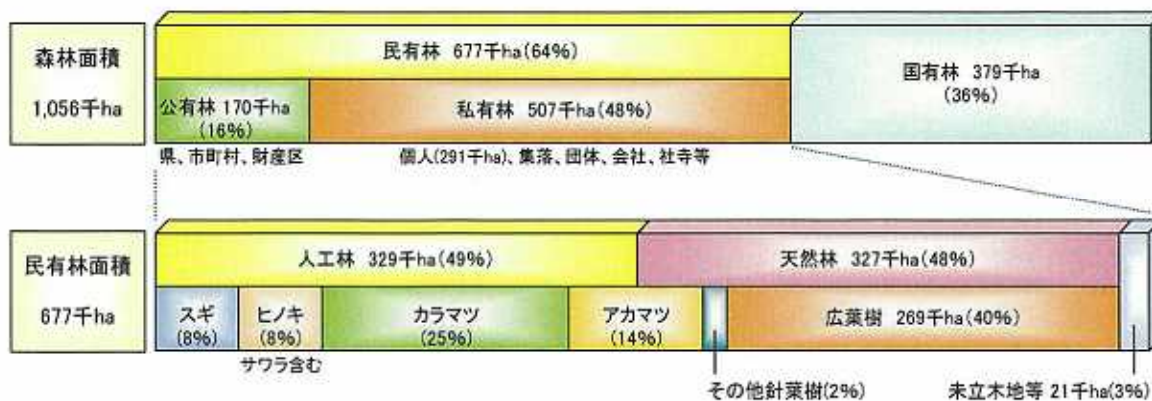
テレビでも取り上げられました森林税導入について、賛否は別として今私たちの地域にある森林について今一度考えてみましょう。

始めに森林のもつ公益的機能について、山地災害の防止や水源のかん養、地球温暖化の防止、さらには循環型資源である木材の提供など多くの恩恵を与えてくれる地域住民はもとより地球規模でのかけがえのない財産であります。

この森林のもつ公益的機能に対する評価額は全国で年間70兆2,638億円と試算されていますが、同様に我が長野県において試算してみると年間で約3兆681億円となります。

この評価額を県民一人あたりの恩恵額として計算すると、年間で約140万、一日あたりでも約3,800円となります。

県内の森林面積・民有林面積



森林の公益的機能の評価額(平成13年試算)

機能の種類	全国	長野県
山地災害防止	36兆6,986億円	1兆6,160億円
水源かん養	29兆8,454億円	1兆2,070億円
地球環境保全	1兆4,652億円	705億円
保健・レクリエーション	2兆2,546億円	1,746億円
計	70兆2,638億円	3兆681億円

森林林業の現状と課題

林業の採算性の低下等により森林所有者の施業意欲は減退し、林業を担う人材も減少しています。このような状況の中で手入れがされずに管理を放棄された森林が増加するなどこのままでは、森林のもつ多面的な機能がますます低下し、生活環境への影響が懸念されます。

特に、集落周辺の里山は、生活に密着し、地域住民に親しまれている森林でありながら、所有が零細であり分散しているため、手入れが遅れており、森林と人との多様な結びつきが途切れてしまう状況になってきております。

森林づくりの必要性

適切な手入れをしないと十分な機能を発揮することができず、災害につながります。

県内の民有林の約半分を占める人工林(人の手によって植栽された森林)は昭和20年代半ばから40年代にかけて植栽されたもので、その林齢(木の年齢)は現在36年生から50年生までに集中しています。

人工林は、樹高成長を続ける60年生頃までに適切な間伐を実施しなければ、森林としての多面的な機能を発揮することができません。今後約10年間に、間伐を中心とした森林づくりを集中的に実施しなければならない時期を迎えています。

